



「第17回全国児童生徒地図優秀作品展」大臣表彰式

左から国土交通大臣賞受賞 山口愛加さん、太田国土交通大臣、文部科学大臣賞受賞 小淵菜緒子さん

CONTENTS

1. 「第17回全国児童生徒地図優秀作品展」大臣表彰式を実施 2
2. 「平成25年全国都道府県市区町村別面積調」を公表 3
3. 企画展「戦後復興を支えた地図と測量」を開催 4
4. 房総半島沖でプレート境界面のゆっくり滑り（スロースリップ）現象を検出 5
5. 第11回北海道測量技術講演会を開催 6
6. 日本最〇端の電子基準点 7
7. 「地図と測量の科学館」だより「地球儀と月球儀」 8
8. 1月の報道発表・3月の主な行事予定 8

「第17回全国児童生徒地図優秀作品展」大臣表彰式を実施

国土地理院「地図と測量の科学館」では、毎年、全国児童生徒地図作品展連絡協議会（事務局：国土地理院）の主催により全国各地で開催された児童生徒の地図に関する作品展の中から優秀作品を一堂に集め、「全国児童生徒地図優秀作品展」を開催しています。第17回となる今回は、各地区から153点の作品を展示しています。

また、これら優秀作品の中から特に優れた作品に対して、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞を授与することとしており、表彰式が1月14日、国土交通大臣応接室で執り行われました。

国土交通大臣賞を受賞したのは、岐阜県揖斐川町立揖斐川中学校3年 山口愛加さんの「徳山ダム～立体地図で湖底を見る～」、文部科学大臣賞を受賞したのは、兵庫県神戸市立長坂小学校6年 小渕菜緒子さんの「神戸空襲から考えたこと」で、太田国土交通大臣から賞状と記念品が授与されました。

表彰状授与後、太田大臣に対し、川村全国児童生徒地図作品展連絡協議会長から、それぞれの受賞作品の紹介が行われました。太田大臣からは、調査した方法や作品制作で苦労した点などについて受賞者に話しかけられ、二人とも最初は少し緊張した表情で話をしていましたが、笑いもあり最後は緊張もほぐれ和やかな雰囲気になりました。



太田大臣に作品を紹介

最後に太田大臣と受賞者、ご家族、立会人で記念撮影を行い、表彰式は滞りなく終了しました。

なお、大臣賞のほか、審査員特別賞として3作品を選出し、それぞれ管内の地方測量部から伝達を行いました。

●国土交通大臣賞

『徳山ダム～立体地図で湖底を見る～』

揖斐川町立揖斐川中学校3年 山口 愛加



●文部科学大臣賞

『神戸空襲から考えたこと』

神戸市立長坂小学校6年 小渕 菜緒子



●審査員特別賞

・『「しばぞのこうか」わたしのまちたんけんマップ
プカルタ』

富山市立芝園小学校1年 野崎 愛加利

・『1/3000の赤穂 お宝よーさんあるで～!!マップ』

赤穂市立御崎小学校6年 松本 彩希
塚本 安紀

・『徳島環状線付近の発展の様子』

徳島文理中学校1年 藤本 瑞姫

(総務部)

「平成25年全国都道府県市区町村別面積調」を公表

平成25年10月1日現在の国土の面積をとりまとめた「平成25年全国都道府県市区町村別面積調」を1月31日に公表しました。

全国都道府県市区町村別面積は、国土地理院発行の2万5千分1地形図から市区町村の行政区域を計測した数値を基に、毎年10月1日を基準日として、全国の市区町村における埋立や境界変更等による面積の変化量を調査・集計して求めています。

今回のとりまとめの結果、国土の面積は、埋立により1年間（平成24年10月2日～平成25年10月1日）で1.82km²増加し、377,961.73km²になりました（表1）。

増加面積「1.82km²」は、現在の方法で調べ始めた昭和63年以降、最小の値となっています。

都道府県別でみると、埋立による増加面積が大きいのは、北海道の0.42km²、次いで神奈川県0.19km²、長崎県の0.13km²です。

市区町村別では、小樽市の0.35km²、次いで横浜市の0.19km²、鹿嶋市の0.12km²です（表3）。

なお、これまで未定であった境界が確定したことなどにより、関係市町の面積値が増減しました（表2）。

今回とりまとめた結果は、国土地理院ホームページの「GIS・国土の情報／全国都道府県市区町村の面積」で公表しています。

<http://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO-title.htm>

また、とりまとめの結果は、前年の面積値に、埋立や境界変更等による増減を数値加算して面積値を算出しているため、地殻変動等の影響は含まれておりません。

国土の面積の公表は、明治15年に太政官統計院によって初めて実施され、人口統計と並ぶ古い歴史を持っており、昭和35年から国土地理院が、「全国都道府県市区町村別面積調」として毎年公表しています。

面積調は、国勢調査報告における人口密度算出や地方交付税算定（地方交付税法第12条）の基礎データとなるなど、様々な分野で利用されています。

表1：国土面積と市区町村数の推移
(平成16年～平成25年)

年次	国土面積 (km ²)	増減面積 (km ²)	市区町村数	1市区町村当たりの平均面積 (km ²)
平成25年	377,961.73	1.82	1,748	216.23
平成24年	377,959.91	5.07	1,748	216.22
平成23年	377,954.84	4.74	1,749	216.10
平成22年	377,950.10	3.59	1,756	215.23
平成21年	377,946.51	2.94	1,802	209.74
平成20年	377,943.57	13.58	1,816	208.12
平成19年	377,929.99	6.85	1,829	206.63
平成18年	377,923.14	8.36	1,846	204.73
平成17年	377,914.78	7.81	2,245	168.34
平成16年	377,906.97	7.77	3,059	123.54

(市区町村数は、北方四島の6村及び東京都の23区を含み、政令指定都市は1市として算出しています。)

表2：1年間の変化 境界確定等による変化

都道府県名	市区町村名	市区町村別増減面積 又は決定面積等 (km ²)	事由
千葉県	大網白里市	+ 58.06	市制施行
	大網白里町	- 58.06	
京都府	宮津市	※ 1	境界確定
	与謝野町	※ 2	
鳥取県	琴浦町	※ 2	境界確定 及び 境界修正
	大山町	※ 2	
鹿児島県	霧島市	※ 3	境界修正
	さつま町	※ 3	

※1 宮津市は、与謝郡与謝野町との境界は確定しましたが、京丹後市、与謝郡伊根町との境界は引き続き未定のため、宮津市単独での面積値は公表していません。

(宮津市(参考値): 172.87km²)

※2 未定であった境界が境界確定等により、面積が決定しました。

※3 境界の一部を修正したことにより面積が増減しました。

参考値とは、境界未定の市区町村について、総務省発行「全国市町村要覧平成25年版」による「便宜上の概算数値」です。なお、面積値に異動のあった市区町村については、参考値を調整しています。

表3：1年間の変化 埋立による変化

都道府県別の増加順位	都道府県名	都道府県別増加面積の計 (k m)	市区町村名	市区町村別増減面積 (k m)	都道府県別の増加順位	都道府県名	都道府県別増加面積の計 (k m)	市区町村名	市区町村別増減面積 (k m)		
1	北海道	0.42	小樽市	0.35	11	石川県	0.05	七尾市	0.05		
			羽幌町	0.01				舞鶴市	0.04		
			枝幸町	0.01		京都府	0.05	京丹後市	0.01		
			室蘭市	0.01				むつ市	0.01		
			様似町	0.03				平内町	0.02		
2	神奈川県	0.19	根室市	0.01	青森県	0.04	中泊町	0.01			
			横浜市中区	0.19			尾鷲市	0.01			
3	長崎県	0.13	長崎市	0.01	三重県	0.04	鳥羽市	0.02			
			佐世保市	0.01			志摩市	0.01			
			対馬市	0.02	熊本県	0.04	玉名市	0.03			
			五島市	0.01			大草市	0.01			
			西海市	0.06	宮城県	0.03	気仙沼市	0.03			
			南島原市	0.01			白浜町	0.01			
			4	茨城県	0.12	新上五島町	0.01	和歌山県	0.03	串本町	0.02
						鹿嶋市	0.12			香川県	0.03
4	福岡県	0.12	北九州市門司区	0.01	秋田県	0.02	高松市	0.03			
			北九州市若松区	0.04			にかほ市	0.02			
6	宮崎県	0.09	芦屋町	0.07	愛知県	0.02	常滑市	0.02			
			延岡市	0.09			伊万里市	0.02			
7	兵庫県	0.08	尼崎市	0.06	富山県	0.01	氷見市	0.01			
			相生市	0.02			福井県	0.01			
	広島県	0.08	竹原市	0.01	岡山県	0.01	倉敷市	0.01			
			福山市	0.01			山口県	0.01			
	沖縄県	0.08	廿日市市	0.06	徳島県	0.01	徳島市	0.01			
			糸満市	0.01			愛媛県	0.01			
			沖縄市	0.03	高知県	0.01	宇和島市	0.01			
			竹富町	0.04			大月町	0.01			
10	大分県	0.07	津久見市	0.02	全国の増加面積		1.82				
			国東市	0.03							
			姫島村	0.02							

(基本図情報部)

企画展「戦後復興を支えた地図と測量」を開催

「地図と測量の科学館」では、3月11日（火）から6月29日（日）まで企画展「戦後復興を支えた地図と測量」を開催します。

いつの時代にも国土のインフラ整備には、地図と測量が大きな役割を果たしています。明治以来受け継がれた近代測量の技術とその成果は、戦後の荒廃した日本の復興を支える役割を果たしました。

本企画展では、陸地測量部から国土地理院の前身である地理調査所へ変貌を遂げた太平洋戦争終結直後の史料をはじめ、測量機器・地図原版など貴重な資料を中心に、戦後復興を支えた地図と測量について紹介します。

陸軍参謀本部第二部の参謀であった渡邊 正 氏から寄贈された「終戦二伴ウ陸地測量部処理要綱案」などの終戦の混乱期に散逸を逃れた貴重な資料も初めて展示します。

企画展を通じて、地図や測量にさらに親しみを深めていただければ幸いです。

「地図と測量の科学館」

<http://www.gsi.go.jp/MUSEUM/index.html>



「地図と測量の科学館」

・ 開館時間 9：30～16：30

・ 休館日 毎週月曜日（休日の場合は順次翌日）

(総務部)

房総半島沖でプレート境界面のゆっくり滑り（スロースリップ）現象を検出

国土地理院では、全国に設置した約 1,300 点の電子基準点等で、地殻変動のモニタリングを行っています。

平成 26 年 1 月 2 日頃から 10 日頃まで、房総半島の電子基準点観測データに、通常とは異なる地殻変動（非正常地殻変動）が検出されました（図 1）。この変動は、房総半島沖のフィリピン海プレートと陸側のプレートの境界面（※ 1）で発生している「ゆっくり滑り（スロースリップ）現象（※ 2）」によるものと推定されます。

検出された非正常地殻変動からプレート境界面上の滑りを計算したところ、房総半島沖で最大約 15cm の滑りが推定されました（図 2）。

房総半島沖では、電子基準点の観測データがある 1996 年以降、1996 年 5 月、2002 年 10 月、2007 年 8 月、2011 年 10 月に、同じような場所でゆっくり滑りが発生したことが確認されています。

国土地理院では、引き続き全国の地殻変動を注意深く監視します。

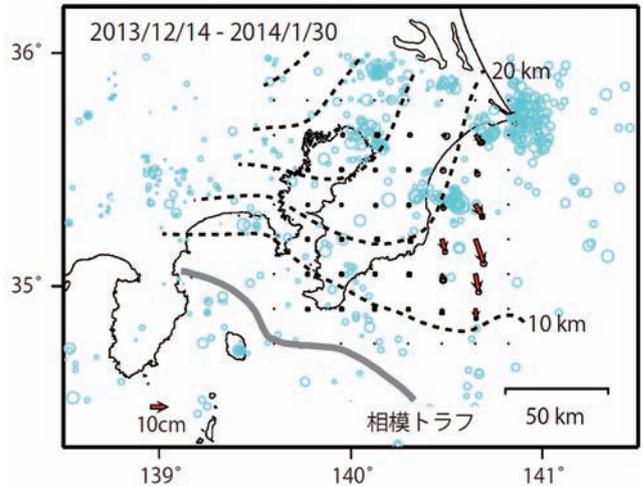
ゆっくり滑りの発生した期間：

2014 年 1 月 2 日頃～1 月 10 日頃

解析に使用した GNSS データの期間：

2013 年 12 月 14 日～2014 年 1 月 30 日

最大滑り量 約 15cm Mw 6.5



- ・赤矢印は GNSS データを基に推定されたプレート境界面上の滑り分布
- ・点線はフィリピン海プレート上面の等深度線（石田, 1992）
- ・青丸は 50 km 以内、M2 以上の震央位置（気象庁一元化震源による）、ゆっくり滑りの発生した期間のものを表示

図 2 検出された非正常地殻変動から推定されたプレート境界面上の滑り

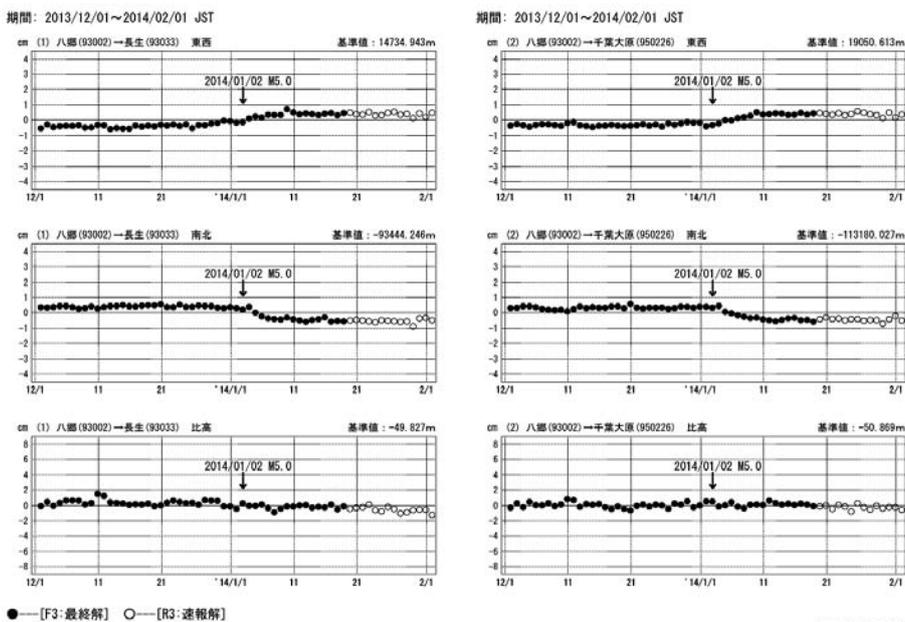


図 1 電子基準点「八郷」-「長生」間の距離の時系列変化グラフ

※ 1 この境界面は、平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震を引き起こした太平洋プレートと陸側のプレートとの境界面とは別のものです。

※ 2 断層面やプレート境界面でのゆっくりとした滑り。地震のように揺れないが、地面には位置のずれとなって現れることがあります。

国土地理院（測地観測センター、地理地殻活動研究センター）

第11回北海道測量技術講演会を開催

北海道地方測量部では、(公社)日本測量協会北海道支部と共催で、第11回北海道測量技術講演会を1月30日に札幌第1合同庁舎講堂で開催しました。講演会には国、地方公共団体及び民間の関係機関等から220名と多くの参加をいただき、道内における関心の高さがうかがえました。



講演会の様子

今回の講演会では「地理空間情報の一層の利活用推進と普及に向けて」をテーマに、最新の取組や情報提供コンテンツの紹介等を行い、地理空間情報の理解を深め、広く利活用を推進していく機会を提供することができました。

講演に先立ち国土地理院宮地参事官が、国土地理院の最近の取組概要を紹介し、続いて、北海道大学大学院農学研究科教授 野口 伸氏から、日本の農業の現状と課題を踏まえ、地理空間情報を活用した農業の自動化・ロボット化の現状について講演していただきました。



北海道大学大学院 野口教授の講演

そのほか、次の4課題の講演がありました。

- 1) 「ほっかいどうの防災教育」
北海道総務部危機対策局危機対策課
防災教育担当課長 甲谷 恵
- 2) 「北海道開発局における地理空間情報の利活用について」
北海道開発局事業振興部技術管理課
技術管理企画官 坂 憲浩
- 3) 「MMS (移動計測車両による測量システム) による道路空間3次元データの取得及びその利活用について」
NPO 法人 全国 GIS 技術研究会技術検討委員会北海道支部 研究員 山本 耕平
- 4) 「くらしに役立つ地理空間情報の活用について」
国土地理院地理空間情報部情報企画課
課長補佐 福島 忍

会場のロビーでは、函館周辺の電子地形図25000のフロア展示(2×3m A0サイズで10面 縮尺は1:9000)を行い、多くの参加者に新たな電子地形図の表現手法を体感していただきました。



フロア展示の様子

また、平成25年度の電子国土賞の受賞作品のパネル展示と紹介ビデオを上映するとともに、電子基準点の模型や明治時代に使用していた経緯儀等測量機器の展示も行いました。

講演会の詳細及び講演資料

<http://www.gsi.go.jp/hokkaido/topics-topics.html#140130>

(北海道地方測量部)

日本最〇端の電子基準点

国土地理院では、GNSS衛星からの電波を連続観測する電子基準点等を全国約1300ヶ所に設置しています。電子基準点の中には、厳しい環境下でも観測を継続できるよう、様々な工夫をこらした点もあります。今回は、そんな点を含む日本の東西南北の端にある電子基準点を紹介します。

最東端は東京都小笠原村にある「南鳥島」です。観測機器を動かすための電気や観測データを国土地理院に送るための通信機器がないため、太陽光発電システムや衛星携帯電話が設置されています。



写真1 電子基準点「南鳥島」

最西端は沖縄県八重山郡与那国町にある「与那国A」です。最北端の「稚内3」と同じタイプ(写真3参照)の架台が設置されています。アルファベットが付く点名は移設の履歴があるもので、Aは移設が1回あることを表しています。



図1 電子基準点「与那国A」

最南端は東京都小笠原村にある「沖ノ鳥島」です。腐食に強いチタン製の高さ50cm、直径2.3mの防護ネットの内部に、観測機器、通信機器、太陽光発電システムを装備しています。



写真2 電子基準点「沖ノ鳥島」

最北端は北海道稚内市にある「稚内3」です。数字が付く点名は同一市町村内に複数の点が設置されていることを表し、稚内市には4点あります。



写真3 電子基準点「稚内3」

電子基準点は、各種測定の基準として我が国の測量に利用されるとともに、位置情報サービスにも活用され、社会基盤整備や地理空間情報サービスを支える重要なインフラとなっています。また、連続観測を行うことにより得られる地殻変動情報は、地震や火山噴火等、防災・減災にも貢献しています。

国土地理院は、連続的にデータが提供できるように電子基準点の確実な維持管理を実施し、安定した運用を行ってまいります。

(測地観測センター)

「地図と測量の科学館」だより 「地球儀と月球儀」

「地図と測量の科学館」には、知っているとおもしろい展示がたくさんあります。今号から「地図と測量の科学館」だより（不定期）として科学館の見所を紹介します。

「地球儀と月球儀」

科学館の東側の“地球ひろば”には芝生に囲まれた縮尺1/20万の球体模型があり、休館日の月曜日でも散歩がてら訪れる方がいます。その隣には縮尺1/1200万、直径約1mの地球儀も置かれています。そこまではよく知られていますが、その地球儀の30mほど北側には直径約30cmの月球儀が置かれていて、その距離と大きさも縮尺が地球儀と同じ1/1200万であることはあまり知られていません。

地球儀から見ると木立の向こうに筑波山が見えます。同じ縮尺では太陽が筑波山付近にあることとなります。

太陽の大きさは、直径が120mくらいになりますが、筑波山に直径120mのモデルは置けませんので、地球から見た月の大きさと同じと思ってく

ださい。皆既日食のときはちょうど月に隠れるわけですから。

お薦め疑似体験は、月に行って地球を見ることです。行ってみると“地球は青かった”と感ずることができるでしょう。これもあまり知られていないことです。



(総務部)

1月の報道発表

8日	「第17回全国児童生徒地図優秀作品展」開催及び大臣表彰式実施	総務部
10日	房総半島沖でプレート境界面のゆっくり滑り(スロースリップ)現象を検出	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
14日	平成25年12月の地殻変動について	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
15日	国土地理院入札監視委員会の議事概要について	総務部
31日	平成25年全国都道府県市区町村別の面積を公表	基本図情報部、各地方測量部、沖縄支所

記事の内容は、国土地理院ホームページ > 2014年 報道発表資料

(<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2014.html>) に掲載しております。

3月の主な行事予定

3/11～6/29	企画展「戦後復興を支えた地図と測量」
11日	地震調査委員会
18日	第55次日本南極地域観測隊帰国

広報誌の内容は、

国土地理院ホームページ > 広報誌 > 国土地理院広報

(<http://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/index.html>)

にも掲載しております。

発行 国土交通省国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441

連絡先：総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
<http://www.gsi.go.jp/>